

来春までの例会作品が決定

11月例会は「大統領の理髪師」、協力上映会は「わらびのこう」

加古川シネマクラブのチラシを製作

前回の例会選定会議をもとに、来年5月まで例会作品が決まりました。これを契機に、カラーのチラシを1万枚作りしました。いつもは、単色チラシ2~3千枚を手作りしているのですが、1年に1回くらいは、見栄えが良くて担当者の負担の少ない外注印刷をしようということからです。もちろん、このカッコ良いチラシを作って、この会の活動を宣伝し、地域の皆さんに認知してもらい、できれば多くの方に入会していただきたいからです。

この会が発足して4年目を迎えますが、この会を安定して運営するための会員数である200~250人に、もう少しのところまで届きそうで届かず、微かに減少傾向になっていることを心配しているのです。そこで、4つの例会作品のラインアップを載せたこのチラシを製作して、会員の皆さんから、周囲の皆さんに配ってもらったり、施設やお店に置いてもらって、一機に目標の会員数の獲得を目指したいと思います。

今春の「父と暮らせば」上映会では、おかげさまで、ほとんど赤字が出なかったのが良かったです。地域に映画文化を広める活動として、1年に1回くらいは、自前の上映会や外注印刷物を作ったりする程度の安定した運営体制にしておきたいと思いません。どうぞ、ご協力をお願いいたします。

次回例会

名称 / 第21回例会「大統領の理髪師」

日時 / 2005年11月24日(木) PM2:00~、PM4:20~、PM6:40~

場所 / 加古川総合文化センター大会議室(JR 東加古川駅から北へ徒歩15分、車は加古川バイパス加古川東ランプ北へすぐ)

受付 / 入会手続きが終わっている方は、受付に同封の「例会参加券」をお渡しください。

入会手続きを行っていない方は、受付で4箇月分の会費(2000円)を支払い、入会手続きを終えてから、「例会参加券」をお受取りください。

【例会作品データ】

タイトル / 大統領の理髪師

監督・脚本 / イム・チャンサン

出演 / ソン・ガンホ、ムン・ソリ、リュ・スンス、イ・ジェウン、チョ・ヨンジン、ソン・ビョンホ、パク・ヨンス、ユン・ジュサン、チョン・ギュス、オ・ダルス
データ / 2004年、韓国、カラー、1時間56分、ドラマ、第17回東京国際映画祭 最優秀監督賞・観客賞
ストーリー

1960年代、韓国。仕事を愛し、妻と子供を愛するごく普通の男の人生が、ある日突然一変した。自分から望んだわけでもないのに、たまたまその町に住んでいたために大統領の理髪師になってしまったのだ！その町とは、韓国大統領官邸「青瓦台」のある孝子洞。政治の中枢に最も近い場所に住んでいても、無学な庶民は日々の生活に追われ、政治のことはよくわからない。時の政権を全面的に支持することしか知らなかった純朴な男が、急に大統領の側近たちの権力争いに巻き込まれて窮地に陥ったり、ほんの些細なミスに命が縮む思いをしたり。しかし、そんな彼が、一番大切なものを守るために思わぬ勇気を示したとき、ついに奇跡が訪れる…。

上映会のご案内

名称 / 「わらびのこう(藤野行)」

日時 / 2005年12月13日(火) AM10:30~、PM2:00~

場所 / 加古川市民会館(JR 加古川駅から南へ徒歩20分、加古川市役所前)

観覧料 / 1,200円(特別割引は900円)

主催 / 兵庫県映画センター、加古川シネマクラブ
その他 / この上映会は、兵庫県映画センターが企画し、加古川シネマクラブと共催するものです。

【作品データ】

タイトル / わらびのこう(藤野行)

監督 / 恩地日出夫

原作 / 村田喜代子

出演 / 市原悦子、清水美那、中原ひとみ、石橋蓮司、李麗仙、左時枝

データ / 2003 年、日本、カラー、2 時間 4 分、時代劇、第 77 回キネマ旬報ベストテン日本映画 8 位、第 25 回ヨコハマ映画祭特別大賞、第 13 回日本映画批評家大賞作品賞・助演女優賞、ベストシネマ賞第 2 位
ストーリー

江戸時代、東北の山里にある小さな村には隠された掟があった。60 の歳を迎えた老人はみな村を出て、半里ほど離れた蕨野に住むのだ。蕨野に移り住んだ老人たちは蕨衆と呼ばれ、農家の手伝いによってのみその日の糧を得ることが許されていた。それは庄屋の母・レンでも例外ではなかった。レンにとって気がかりなのは息子の若い嫁・ヌイだ。他の村から嫁いだヌイは、まるで実の母のように、レンを慕っていた。その年、村を凶作が襲った・・・。

前回例会の報告

9 月 14 日の例会では、「パッチギ!」を鑑賞しました。参加会員 145 人。

感想から

純愛ものの韓国ドラマとは又違って、考えさせられる映画でした。歴史的うらみを抱える朝鮮民族との関係は政治的に行きづまっている感じの現在、静かに、文化的手段で一般に訴えるこのような映画は、草の根的に心情にしみ入る感じがします。一人でも多くの人に見てもらいたいと思います。(50 歳代、女性)

パッチギ、3 回も見てしまった!

まあ、ケンカのシーンは意見の別れる所でしょうが、VAN の服、色とりどりのヘルメット、フォークソング、GS、ヒッピーなんて、「うんうん」と肯れた方も多かったのでは?

三条から九条あたりを走りまわって育った夫にとっては、まさに青春グラフィティーそのもの。胸にこみ上げるものがあった様で...

私はあの頃、太秦にある保育園に勤めていたので、ガンジャが白梅町で子供達をつれているシーン、子供の存在感にすごくリアリティーを感じてしまった。朝 6 時から開けましたけれど、それでも、待っていてね。あの辺は家内工業みたいな工場もあったし、映画に関わる人も多くいて、夜の 8 時頃に子供達を撮影所まで送ってゆく事もよくあった。チェドキが東映のアクションスターになりたくても、実際のところ厳しかったと思うな～。だからこそ、ガンジャが日本で資格をもつ看護婦になるというのが、実は

どんなに困難な事だったのかもみえてしまう。

「アリラン統一戦線」なんていって鉄パイプを売りつけに行った京大西部講堂は、演劇、コンサート、舞踏なんかもやっていて、割れたガラスの上をバリバリ踏みながら入ってゆくと、不思議な高揚感が漂っていた。

そうそう、ホルモンも今でこそ焼肉の定番メニューだし、ホルモン鍋なんかもオシャレに登場したけれど、「ホルモン屋に行く」というのは、一般的な事ではなかった様な気がする。日本人と朝鮮人のやっている店では、ちょっと様子が違っていましたしね。その時の懐具合でどっちにも行っていたけれど、七輪で焼くのは同じ。生のホルモンをビニール袋に入れて持って帰るのも普通で、子供もよくお使いにきていた。

あれから 35 年位たつけれど、世の中あんまり良くなっている様には思えない。

「知ろうとしない、知りたくない、関わりたくない、排除」と簡単につながってしまう構造は、ほとんど変わっていない。

諸外国からどんな風に見られているかを考えると、今の日本は『軽くヤバイ』どころではない。経済格差は確実に広がってゆくだろうし、厳しい年金生活に突入する団塊の世代のパッチギは、実は、これからが本番かもしれない。続編に期待!! (ネコママ)

忘年会のお知らせ

今年の忘年会は、詳細は未定ですが、12 月 16 日(金)午後 7 時頃に加古川駅周辺の居酒屋で行うことになりそうです。決まりしだいホームページに告知します。参加希望の方は、電話や電子メールでお伝えください。

ご意見をお待ちしています

映画の感想や意見など、このニュースへ記事をお寄せください。200~300 字程度にまとめていただければ助かります。おすすめ作品をファックス、メールや例会会場のアンケート用紙でお知らせください。

加古川シネマクラブ 〒675-0101

加古川市平岡町新在家 752-46 B-313 山本方

TEL 090-9283-0435 FAX 078-935-8528

E-MAIL cinemaclub@nifty.com

<http://homepage3.nifty.com/cinemaclub>

会員数 195 人(9 月 14 日現在)